

報告第15号

株式会社淡路島パルシェの令和5年度決算書類の提出の件

株式会社淡路島パルシェの令和5年度決算書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出する。

令和6年9月2日提出

淡路市長 門 康 彦

令和5年度事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

【総論】

今年度の来館者総数は180,453名(前年度比96.9%、コロナ前の令和元年度比74.9%)、内訳は香りの館86,278名(92.7%、66.2%) 香りの湯94,175名(101.1%、85.1%)、純売上高は172,478,109円(税別・前年度比95.4%、コロナ前の令和元年度比69.7%)であった。令和5年1月から休業している和食処かおりの前年売上約840万円を考慮すると、他の部門合計では前年並みの売上で推移している。

来館バス台数については、493台(前年度355台、令和元年度1,098台)、部門毎の純売上高は、物販事業前年度比102.3%、コロナ前の令和元年度比75.5%、栽培事業79.4%、73.7%、ファーストフード事業109.3%、116.4%、加工体験事業92.8%、108.7%、温泉事業103.5%、85.3%、宿泊事業108.4%、109.6%であった。

海水浴場の開場をはじめ、コロナ禍自粛されていた島内のイベントが再開され、観光バスの動きも出てきているが、前年のような観光支援策が無いこともあり、来館していただいても売り上げに繋がらないという傾向がみられる。島内に新設の観光施設並びに宿泊施設が多く出来ており、お客様の選択肢が増えている中で、原点ともいえるパルシェの特色である「香り」というテーマを活かした施設づくりを強化し、他の施設との差別化を図る必要がある。

今年度は、直面している人手不足とコスト高が大きな課題である。人手不足については、管理職による無賃の残業、休日出勤で欠員の穴埋めをしている状況で、いつまでも続くものではなく疲弊感も漂っているうえ、売上機会の損失にも繋がっており深刻な問題となっている。コスト高については重油、電気をはじめ、原材料、最低賃金の引上げ等経費の殆どが高騰しており、手作り体験、カフェメニューの値上げを行った。単に値上げをするのではなく、お客様の満足度を高めることも同時に推し進めたうえでの値上げを行うよう心掛けている。

温泉料金についても令和6年10月からの値上げを決定しているが、五色ゆーゆーファイブが700円、南あわじ市の温浴施設は630円で統一されており、パルシェの現行730円を値上げし、更に価格差が広がる事を考えると、お客様の足が遠のく懸念があり、露天風呂、サウナへの香り付け等でイベント性を高める等、他の温浴施設との差別化への取り組みを進める。

今後は、インバウンド受入れに向けて、掲示物や施設の案内文の多言語対応、携帯通訳機、並びに従業員の外国語研修も必要と考えている。

【各部門の事業内容】

1. 物販事業（特産館・和食処「かおり」での物品販売事業）

売上は 42,768,979 円（税別・前年度比 102.3%）であった。来館バス台数はコロナ前の令和元年度の半数以下ではあるが 493 台の来館があった。コロナ禍、隣近所にお土産を買って帰るという状況ではなく、調味料、芳香剤をはじめ、ご自身で消費される物が良く売れるように見られたが、この傾向は現在も続いており、今後この傾向が定着するものと考え、品揃えの見直しを進めている。

2. 和食処「かおり」事業（香りの湯での飲食の提供）

令和 5 年 1 月から休業しており、売上は発生していない。前年売上は 8,449,504 円であるが赤字部門であった為、休業している事で営業損失は減少している。

3. 栽培事業

売上は 3,156,377 円（79.4%）であった。異常気象ともいえる猛暑と大雨などに悩まされることが多くなり、屋外の植栽計画については気候の大きな変動を視野に入れた対策が必要となっている。

令和 3 年 7 月からスタイルム瀧定大阪㈱と進めているリサイクル培地アグリラボについては、様々な植物の栽培試験を行ってきたが、現在は利益を求める体制に舵を取り、商業利用を検討するためパルシェの得意分野であるハーブ栽培に絞り、植え替えを順次行っている。ローズゼラニウムとハッカでエッセンシャルオイルの蒸留を行い、オリジナル石鹸の商品化に取り組んだ。リサイクル培地事業は、2025 大阪関西万博共創チャレンジ並びに、ひょうご産業 SDGs 推進宣言事業に登録しており、この事業についてお客様にもっと知っていただく為、香りの館エントランスホールに紹介コーナーを設け、広くアピールする場としている。

大温室では、新たにブーゲンビレアの本格的な栽培を始めた。ほぼ年中開花し、温室内を明るく華やかにし、従来花が少なかった夏から冬に楽しんでもらえた。

温室でのお花の観賞、屋外でのお花摘み体験は人気があり、栽培事業はパルシェへの来館の動機付けとしての役割が大きい。

《今期の摘み取り体験の実績》

○カレンデュラ【期間 4 月 1 日～5 月 14 日】10 本 100 円

売上 108,254 円（1,083 名） 前年 120,127 円（1,200 名） 前年比 90.1%

○カモミール【期間 4 月 29 日～5 月 31 日】小袋 100 円

売上 20,000 円（200 名） 前年 10,000 円（100 名） 前年比 200%

○ラベンダー【期間 6 月 7 日～7 月 3 日】20 本 200 円

売上 201,501 円（1,007 名） 前年 206,685 円（1,033 名） 前年比 97.5%

- ひまわり 【期間 7 月 22 日～8 月 27 日】 5 本 200 円
売上 61,303 円 (307 人) 前年売上 85,357 円 (426 人) 前年比 71.8%
- 千日紅 【期間 8 月 22 日～9 月 30 日】 20 本 200 円
売上 48,313 円 (241 名) 前年 86,312 円 (863 名) 前年比 56.0%
- コスモス・メキシカンセージ 【期間 10 月 11 日～11 月 5 日】 30 本 200 円
売上 62,840 円 (314 名) 前年 75,085 円 (750 名) 前年比 83.7%
- カレンデュラ 【期間 R6 年 3 月 15 日～3 月 31 日】 10 本 200 円
売上 10,404 円 (52 名) 前年 7,315 円 (73 名) 前年比 142.2%

4. ファーストフード事業

売上は 13,587,265 円 (109.3%) であった。カフェに改装して 8 年が経ち、マンネリ化が課題であり、既存メニューの改良と新メニュー開発に試行錯誤を重ねている。和食洋食共にレストランを休業していることから、パルシェ施設内唯一の食事場所という事もありハンバーガーの売上が前年比 126.9%、ソフトクリームが 113.9% と昨年からの好調を維持している。新メニューでは淡路島藻塩プリン、チョコタルト、バスクチーズケーキを発売したが大きなヒットとはならなかった。今後も引き続きヒット商品となれるメニュー開発を推し進める。

5. パルシェマルシェ事業

契約農家の高齢化もあり、生産力の低下、品揃えの不足が大きな問題である。品揃え豊富な農家さんとの契約を模索しているが、見つかっていない。

赤字事業であったことから、売場をファーストフード&ハーブショップ内に移転し、売場を集約することにより、人手不足への対応、並びにレジ係に掛かっていた人件費の削減をしている。

6. 特産開発事業

売上は 3,159,910 円 (99.1%)、オリジナルのハーブ商品ラインナップにハーバルピローローズブレンドとドライラベンダーを詰めた巾着袋を加えた。

オリジナルエッセンシャルオイル S u u は、ラベンダーが 4 か月間ほど品切れしていたこともありパルシェショップ内での売り上げは振るわなかったが、ふるさと納税返礼品では 149,830 円の売上があった。

スタイレムアグリラボで育てたハーブを蒸留したエッセンシャルオイルを使用した石鹸を商品化し販売を開始した。また蒸留の際ほとんど廃棄しているフローラルウォーターを 50% 以上使用した除菌・消臭・ウイルス除去スプレーもオリジナルの新商品として令和 6 年 7 月発売予定で開発を進めている。

7. 加工（体験）事業

売上は41,302,282円（92.8%）、特にハーバリウムの落ち込みが大きく、手作り体験利用者全体に占める割合が前年の約28%から11%へと、ハーバリウムが選ばれなくなっている。マンネリも一つの要因であり、洲本実業高校、兵庫県線香協同組合との取り組みで進めている、お香の盆切り体験を新メニューで導入を計画し、AWAJI島博に登録も済ませている。

令和6年2月1日付けで体験価格の改定を行った。値上げに伴う内容にする為、香水体験はボトルをグレードアップし内容量を10mlから15mlに変更、持ち帰り用の巾着袋も新たに用意した。石鹸体験は従来エッセンシャルオイルもドライハーブも選択できなかったが、各2種類用意し4パターンからの選択を可能にした。

オリジナル商品の調香を体験スタッフがっており、スタイレム瀧定大阪のブランドaromaに続き、近隣のホテルザコンパクトからも調香の依頼が入った。

人手が不足しており、観光バスでの団体様対応には、他部署からの応援で凌いでいるが、アロマに精通したスタッフの欠員補充が急務である。

8. 温泉事業

入浴者数は91,137名（宿泊客3,038名を含む・102.0%）、売上は38,087,197円（103.5%）であった。特に近隣の宿泊施設、スポーツイベント等からの団体様利用が増えている。重油価格の高止まりと施設の老朽化が大きな問題である。老朽化については、ろ過機、制御盤をはじめ、ポンプ、配管類、サウナ設備等、更新が必要な物が多いが、すべて先送りになっている。半導体不足、世界情勢、円安の影響による原材料高騰等、様々な要因から、大きな故障が発生した場合は、修繕資材の手配に時間が掛かり、数カ月間営業が出来なくなる可能性もあり、温泉の機械類には多くの不安要素が潜んでいる「爆弾を抱えている」ような状況にある。

9. 宿泊事業

宿泊者数3,038名（97.4%）売上は19,175,247円（108.4%）であった。春先は不調であったが、5月8日の新型コロナウィルス5類引き下げ以降徐々に宿泊者数が回復し、夏休みシーズンは家族連れを中心に多くの利用があった。

10. 香りの公園

公園管理並びに香りの公園を愛でる会事務局の運営を行っている。これまでの流れに加え、目新しい部分を作ろうと試行錯誤しているが、管理面積も広く、パルシェの植栽担当者を頻繁に作業応援させている。香りの公園を愛でる会の運営では、香りの公園や一宮事務所花壇の手入れ、研修旅行の手配などを行った。年度事業の中で、2回パルシェ主催で寄せ植え体験などを行っているが、リサイクル培地の紹介や取り組みを知ってもらう機会として、リサイクル培地を使用した植え付け体験を行った。

第 1 2 期

決 算 報 告 書

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月 31日まで

株 式 会 社 淡 路 島 パ ル シ ェ
(法人番号：4140001088843)

令和 6年 3月31日現在

(単位：円)

科 目		金 額	科 目		金 額
I	(資 産 の 部) 流動資産 現金及び預金 クレジット・クーポン 棚卸資産 前払費用 未収戻付法人税等 未立貸倒引当金	(53,653,230) 27,235,800 5,785,727 1,462,906 15,857,742 865,567 334,701 2,143,077 107 17,603 △ 50,000	I	(負 債 の 部) 流動負債 買掛金 未払法人税等 未払消費税費 前受り品商	(20,026,841) 8,681,546 9,182,141 185,000 1,580,000 183,000 198,154 17,000
II	固定資産 有形固定資産 建物 機械及び装置 工具、器具及び備品	(8,493,572) (8,065,072) 5,663,815 1,567,504 370,497 463,256	II	固定負債	(0)
	無形固定資産	(0)		負債の部合計	20,026,841
	投資その他の資産 出資金 差入保証金 長期未収入金	(428,500) 10,000 300,000 118,500		(純 資 産 の 部) I 株主資本 1. 資本金 2. 資本剰余金 3. 利益剰余金 (1)その他利益剰余金 繰越利益剰余金	(42,119,961) 100,000,000 (0) (△ 57,880,039) (△ 57,880,039) △ 57,880,039
				II 評価・換算差額等	(0)
III	繰延資産	(0)		III 新株予約権	(0)
	資産の部合計	62,146,802		純資産の部合計	42,119,961
		6-6		負債・純資産の部合計	62,146,802

損益計算書

令和 5年 4月 1日から
令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目					金 額		
I	売上高	商品売上高	飲食・宿泊・温泉・栽培・加工・受託・売上高	引戻り高	46,069,224 13,673,656 58,953,063 55,795,451	△	174,491,394 2,013,285 172,478,109
II	売上高	商品売上高	棚仕仕入	卸入高	24,925,029 19,172,679		12,897,503 44,097,708 56,995,211 14,006,440 42,988,771 129,489,338
III	販売費	販売費	及び一般管理費	損失		148,600,013	148,600,013 19,110,675
IV	営業外収入	受取配当	雑収入	益金		307 300 16,480,619	16,481,226
V	営業外費用	雑損		損失		16,348	16,348
	経常損失						2,645,797
VI	特別利益			益		0	0
VII	特別損失	固定資産除却		損失		1	1
	税引前当期純損失						2,645,798
	法人税、住民税及び事業税					185,000	185,000
	当期純損失				6-7		2,830,798

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
給 与 手 当	25,556,500
雑 給	43,681,336
旅 費 交 通 費	55,035
広 告 宣 伝 費	2,003,291
発 送 配 達 費	174,961
支 払 手 数 料	4,608,983
報 酬 料 金	929,090
退 職 給 付 費 用	68,302
役 員 報 酬	720,000
法 定 福 利 費	7,926,497
厚 生 費	1,393,015
減 価 償 却 費	1,390,653
地 代 家 賃	266,719
修 繕 費	3,221,407
事 務 用 消 耗 品 費	572,190
通 信 交 通 費	645,439
水 道 光 熱 費	21,757,171
租 税 公 課	163,119
寄 付 金	9,000
接 交 際 費	273,839
保 険 料	443,170
備 品 消 耗 品 費	6,443,960
燃 料 費	14,184,251
賃 借 料 費	1,787,824
委 託 費	9,657,016
諸 会 費	559,773
会 議 費	77,251
貸 倒 償 却 費	10,000
雑 費	20,221
合 計	148,600,013

棚 卸 資 産 の 計 算 内 訳

令和 6年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 品	6,359,397
原 材 料	7,647,043
貯 蔵 品	1,851,302
合 計	15,857,742

株主資本等変動計算書

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月31日まで

(単位:円)

I	株	主	資	本			
1.	資	本	金				
			当期首残高			100,000,000	
			当期変動額			0	
			当期末残高			100,000,000	
2.	利	益	剰	余	金		
(1)	そ	の	他	利	益	剰	余
	繰	越	利	益	剰	余	金
			当期首残高			-55,049,241	
			当期変動額				
			当期純損失		-2,830,798	-2,830,798	
			当期末残高			-57,880,039	
	そ	の	他	利	益	剰	余
			金	合	計		
			当期首残高			-55,049,241	
			当期変動額				
			当期純損失		-2,830,798	-2,830,798	
			当期末残高			-57,880,039	
	株	主	資	本	合		
			計				
			当期首残高			44,950,759	
			当期変動額				
			当期純損失		-2,830,798	-2,830,798	
			当期末残高			42,119,961	
II	評	価	・	換	算	差	額
			等				
			当期首残高			0	
			当期変動額			0	
			当期末残高			0	
III	新	株	予	約	権		
			当期首残高			0	
			当期変動額			0	
			当期末残高			0	
	純	資	産	の	部	合	計
			計				
			当期首残高			44,950,759	
			当期変動額				
			当期純損失		-2,830,798	-2,830,798	
			当期末残高			42,119,961	

個 別 注 記 表

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 其他有価証券

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

5. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

16,412,005円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

2,000株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、21,059.98円であります。

2. 一株当たり当期純損失は、1,415.39円であります。

以 上